

感染症対策の 数理的デザインとは

～失敗談を通じた成果の取りまとめ～

感染症の数理モデルが様々な場面で流行対策の実装に利用されていますが、従来の政策判断と客観化のプロセスの間にはギャップがあることが否めません。様々な場面で科学技術イノベーションの一端を合理的な政策形成プロセスに反映することに幾度か失敗したことを踏まえ、次への教訓を共有する機会を設けます。

演者

稲葉 寿 (東京大学大学院数理科学研究科 教授)

岩見真吾 (九州大学大学院理学研究院生物科学部門 准教授)

梯 正之 (広島大学大学院保健学研究科 教授)

中谷友樹 (立命大学歴史都市防災研究センター 教授)

西浦 博 (北海道大学大学院医学研究院衛生学 教授)

(順不同、敬称略)

日時 2018年 1月24日(水) 13:00-15:00

場所 TKP品川カンファレンスセンター 会議室6B

参加費:無料
事前登録:不要

品川駅高輪口1分
東京都港区高輪3丁目26番33号 京急第10ビル



主催

JST戦略的創造研究推進事業
RISTEX科学技術 (イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム)

共催

文部科学省科学研究費補助金「新興感染症の流行を先取りしたリアルタイム推定研究の実装」